



## 創造主を礼拝せよ

### 暗唱 聖句

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか」  
(イザヤ 58：6、7、口語訳)

「わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、<sup>くびき</sup>轡の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、轡をことごとく折ること。更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え／さまよう貧しい人を家に招き入れ／裸の人に会えば衣を着せかけ／同胞に助けを惜しまないこと」(イザヤ 58：6、7、新共同訳)

### 今週の 聖句

詩編 115：1～8、申命記 10：17～22、詩編 101：1、  
イザヤ 1：10～17、イザヤ 58 章、マルコ 12：38～40

### 安息日 午後 8/3

### 今週のテーマ

旧約の預言者についてざっと読んだだけでも、彼らが貧しく抑圧された人たちへの虐待を私たちに気づかせようとしていることがわかります。預言者たちと、彼らが代弁した神とは、周囲のあらゆる国々でなされていたことを見て、激怒していました(例えば、アモス 1 章、2 章参照)。しかし彼らは、神から多くの祝福を受けてきた神の民自身による不正行為にも、特に怒りと嘆きの気持ちを抱いていたのです。この民の歴史とともに、神からこの民に与えられた律法を考慮するなら、彼らはもっと分別があつてしかるべきでした。しかし残念ながら、いつもそういうわけではなく、預言者たちはこのような悲しい事態に関して言いたいことを山ほど持っていました。

正義や不正に関する旧約の預言者の有名な言葉の多くは、実際のところ、礼拝に関する命令の中で述べられており、その点も興味深いところです。これから見ていくように、真の礼拝は単に宗教的儀式の中でなされるものではありません。真の宗教は、他者の幸福に対する神の気遣いを共有する生活を送ること、踏みつけられ、忘れ去られてきた人たちを高く上げようとする生活を送ることでもあるのです。

イスラエルの人々がエジプトから導き出されたあと、神は、ほどなくして彼らとシナイ山で会い、石に書かれた十戒をお授けになりました。十戒の最初の二つの掟は、ほかの神々を礼拝しないことと、偶像を造らないことに関するものでした（出20：2～6参照）。人々はそれに対して、命じられたことをすべて行い、神の民として生きることを約束しました（同24：1～13参照）。

しかしその後、ほぼ6週間、モーセが山に登ったきりになると、彼はどうなったのだろうか、人々はいぶかしく思い始めました。暴徒たちから圧力をかけられたアロンは、金の子牛を造って、その前で献げ物をするように人々を指導し、その後、「民は座って飲み食いし、立っては戯れた」（出32：6）のでした。人々がこれほど早く神に背を向け、偶像礼拝に陥ったことに、主もモーセも激怒しました。モーセの執り成しがなければ、イスラエルは受けるべき罰を免れられなかったようです（同32：30～34）。

しかし偶像礼拝は、神の民があまりにも頻繁<sup>ひんぱん</sup>に陥った誘惑でした。イスラエルとユダの王たちの歴史は、偶像礼拝の期間によって中断されましたが、そこには、こういった神々の礼拝の中で王たちが民に犯させた言語道断の行為も含まれます。人々を神に呼び戻すために神から遣わされた預言者たちが繰り返し焦点を合わせたのは、そのような不誠実でした。またしばしば、リバイバルと改革が要求される中で、貧しい人、乏しい人、無力な人たちをより良く扱うようにという要求もなされました。

**問1** 詩編115：1～8を読んでください。記者はどんな重要な主張をそこで見えていますか。

私たちは、自分が礼拝し、注目する物や人に似ます。それが人間の傾向です。ですから、神の民が正義の神を礼拝しなくなり、周辺諸国の（しばしば、戦争の神や豊穡の神の形をした）偽の神々を礼拝するようになったとき、他者や正義に対する関心が薄れてしまうのは、極めて自然なことでした。ほかの神々を選んだとき、人々は多くのことにおいて自らの態度を変えましたが、そこには他者への接し方も含まれていました。もし彼らが主に忠実であったなら、彼らの中の困窮している人々たちに対する神の関心を共有していたことでしょう。

◆ 私たちは、自分が礼拝するものに似るといふ考えについて、じっくり考えてください。現代において、この原則はどのようにあらわれていますか。

聖書全体を通じて、神の民は神を礼拝するように勧められています。そうする理由も繰り返し説明されています。神を礼拝しなさい、と私たちが言われるのは、神が何者であるかということ、神が何を成し遂げられたかということ、そして神の多くの特性のゆえです。その特性の中には、善良さ、正義、憐れみが含まれます。神がどのようなお方であるか、神が私たちのために（とりわけキリストの十字架によって）何を成し遂げられたのか、また神が何をすると約束しておられるのかを私たちが思い出すとき、私たちの中のだれ1人として、神を礼拝し、ほめたたえる理由のない人はいないはずで

申命記10:17～22、詩編101:1、146:5～10、イザヤ5:16、61:11を読んでください。これらの聖句の中には、神を礼拝し、ほめたたえる動機が与えられています。礼拝のためのこのような理由は、神の民にとって耳新しいものではありませんでした。解放されたばかりのイスラエルの人々が最も熱心に礼拝したのは、神が彼らのためにはっきりと介入してくださり、それに応答したときでした。例えば、エジプトから連れ出されて葦の海を渡ったあと、モーセとミリアムは、人々が目にしたばかりのことや、救い出されたことのゆえに神をほめ歌うよう、彼らを仕向けました（出15章参照）。

神の正義と憐れみは、このような出来事の中で明らかにされているように、忘れ去られるべきではありません。イスラエルの人々が定期的に繰り返し語ることによってこれらの物語を存続させたので、神の行為と正義は、何年経っても、また何世紀あとも、彼らの礼拝を動機づけるものであり続けました。この繰り返し語ることと礼拝の一例は、申命記10:17～22に記録されています。

第一に、神の正義は、神がどのようなお方であるかの一部にすぎませんが、彼の本質的特徴の中核的要素です。「神が罪を犯すことは決してない。全能者は正義を曲げられない」（ヨブ34:12）。神は公正であり、正義に関心を寄せておられます。そしてそれが、神を礼拝し、ほめたたえる理由の一つなのです。

第二に、神の正義は、御自分の民や、貧しく虐げられた人たちのための神の公正で正しい行為の中に見られます。神の正義は、単に神の特徴の説明ではありません。むしろ聖書は、「貧しい者の叫びは聞かれる」（ヨブ34:28）、私たちの世界で明らかな誤りを正すことに積極的で、それを切望しておられる神を描いています。最終的に、これは神の最後の裁きとこの世の再創造の際に完全に実現されます。

◆ 古代イスラエルが主をほめたたえる理由を持っていたのなら、キリストの十字架のあとの私たちは、神をほめたたえる理由をどれほどもっと多く持っているでしょうか。

イスラエル王国とユダ王国の良い時代に、人々は神殿に戻って神を礼拝しましたが、その時でさえ、彼らの礼拝にはしばしば偶像礼拝が入り込み、周辺諸国の宗教が混じっていました。しかし預言者たちによれば、宗教上の彼らの最善の努力でさえ、その地において日常生活の中で行われている悪から人々を離れさせるのに十分ではありませんでした。彼らが礼拝の儀式を通して宗教的になるように熱心に取り組んでも、彼らの賛美の音楽で、貧しく虐げられた人たちの叫び声をかき消すことはできませんでした。

アモスは、当時の人々を「貧しい者を踏みつけ／苦しむ農民を押さえつける者たち」（アモ8：4）と評しています。市場を再開し、不正な取引に戻れるように儀式を終わらせたいと願っている人々の姿を、アモスは目にしました。その取引は、「弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取（る）」（同8：6）ようなものでした。

**問2** イザヤ1：10～17、アモス5：21～24、ミカ6：6～8を読んでください。主は、これらの信心深い人たちの儀式に関して、何とっておられますか。

周囲の人たちの苦しみや抑圧から切り離され、それらとは対照的である宗教や礼拝をあざ笑うために、神は御自分の預言者たちを通じて強い口調で話しておられます。アモス5：21～24において神は、「憎み、退ける」と言っておられ、人々の礼拝にほとんどうんざりしておられます。彼らの集いは「悪臭」と評され、彼らの献げ物や音楽は、むなしいものとして拒絶されています。

ミカ6章では、いかにしたら最も適切に神を礼拝できるのかということについて、だんだん誇張されていく（あざ笑うかのような）一連の提案が見られます。預言者は、からかうように焼き尽くす献げ物の提案をし、次にその献げ物を「幾千の雄羊、幾万の油の流れ」（ミカ6：7）に引き上げ、その次には、神の好意と赦しを得るために長子をささげることが提案するという恐ろしい（けれど、見知らぬものではない）極論へと進んでいます。

しかし結局のところ、神が彼らに心から望んでおられたのは、「正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと」（ミカ6：8）でした。

◆ あなたは、周囲の困窮している人々を助けることよりも、宗教的形式や儀式を気にするという罪を犯している自分に気づいたことがありますか。

礼拝と正義の結びつきに関する預言者たちの説明の中に、彼らが勧めるもう一つの方法があります。それは、貧しく虐げられた人たちを解放し、困窮している人たちを助けることに積極的な関心を持つことが、礼拝の重要な一部であるということです。イザヤ 58 章は、そのようなつながりを明らかにしています。

**問3** イザヤ 58 章を読んでください。この章の前半で説明されているように、神と神の民の関係において、何が問題でしたか。

すでに触れたように、この批判は積極的に信心深い人たちに向けられています。彼らは熱心に神を尋ね求めているように見えますが、どうやらうまくいっていないようです。それゆえに神は、彼らが礼拝の仕方を変え、異なる方法で神に仕えるようにすべきである、とおっしゃいます。仮に神が彼らの礼拝の仕方をお選びになるとしたら、それは、「悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること」（イザ 58:6）でしょう。彼らは飢えている人に食べ物を与え、家のない人に住む場所を与え、困窮している人たちをも助けるでしょう。

このような活動は、礼拝の唯一の方法として提示されているのではありませんが、神は礼拝の一つの方法（また、人々のもっと伝統的な礼拝行為のあるものよりも好ましい礼拝の形）として彼らに勧めておられます。従って、礼拝は内面に目を向けるものであるとともに、神の礼拝者たちの周りにいるすべての人に祝福をもたらすものでもあるのです。「宗教の真の目的は、人間を罪の重荷から解放すること、耐えがたいことや抑圧を取り除くこと、正義、自由、平和を促進することである」（『SDA聖書註解』第4巻306ページ、英文）。

イザヤ 58:8～12において神は、この種の礼拝への応答として祝福を約束しておられます。実質的に神は、もし人々が自分自身にあまり注目しなければ、彼らは、神が彼らとともに働き、彼らを通していやしと回復をもたらされることに気づくだらう、と言っておられるのです。

興味深いことにイザヤ 58 章は、この種の礼拝と「喜び」にあふれた安息日順守の回復を結びつけてもいます。私たちはすでに、安息日と奉仕の強い結びつきについていくらか考えましたが、これらの聖句は、礼拝を活性化し、神の祝福を発見するよという人々への呼びかけの中に、両方の活動を含んでいるのです。これらの聖句を念頭に置きながら、エレン・G・ホワイトは次のようにコメントしています。「主の安息日を守る者たちには、憐れみと慈善の働きをする義務が負わされている」（『福祉伝道』121ページ、英文）。

イエスは「罪人」たちと食事をしたことで彼を批判した当時の宗教指導者の何人かと対峙されたとき、預言者ホセアの言葉を引用して、「『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい」（マタ 9:13、ホセ 6:6 の引用）と言われました。

これから見ていくように、イエスは福祉と奉仕の人生を送られました。他者との彼の交流、いやしの奇跡、多くのたとえ話は、そのような生き方が神に対する真の献身をあらわす最善の方法であったことをはっきり示し、強く勧めるものでした。宗教指導者たちは、イエスの最大の批評家でしたが、彼らはまたイエスの最も手厳しい批判の対象でもありました。イザヤの時代の信心深い人たちと同様、彼らは、自分たちの宗教的行為のゆえに神との特別な関係を確保していると信じていました。が、その一方で彼らは、貧しい人たちを搾取し、困窮している人々を無視していたのです。彼らの礼拝はその行動と調和しておらず、イエスは遠慮せずにそのような偽善を糾弾しました。

**問4** マルコ 12:38～40 を読んでください。「やもめの家を食物にする」というイエスの言葉は、リストの中で浮いているように見えますか。それとも、これはイエスが強調しようとしておられることなのでしょうか。あなたは「このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる」の意味をどう説明しますか。

たぶん、イエスの（とりわけ、信心深い人たちにとって）最も恐ろしい説教は、マタイ 23 章の中に見いだされるでしょう。イエスは、彼らの宗教が恵まれない生活を送る人々を助けていないと評したのみならず、そのような宗教は、恵まれない人々の重荷を増やすものだともみなされました。彼らの行動によって、また時には、行動や思いやりがないことによって、彼らは「人々の前で天の国を閉ざす」（マタ 23:13）と、イエスは言われました。

何世紀も前の預言者たちと同じように、イエスも彼らの真面目な宗教行為と彼らが非難しながらも利益を得ていた不正行為との溝を正面から取り上げられました。「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。薄荷、いのんご、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ」（マタ 23:23）。イエスは直後に、宗教的慣習や順守そのものは間違っていない、と付け加えておられますが、それらは他者を公平に扱うことに取って代わるべきではありません。

◆ 私たちはどうしたら、真理を知り、真理を持つだけで十分だという思い込みに陥らないようにできますか。

参考資料として、『各時代の希望』第67章「パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである」を読んでください。

「預言者が、実際の敬神深さの価値を強調したことは、幾世紀もの昔、イスラエルに与えられた勧告をくり返したに過ぎなかった。……各時代を通じて、これらの勧告は、主のしもべたちが、形式主義に陥り、憐れみを示すことを忘れる危険のある者に対して繰り返してきたのである」（『希望への光』512ページ、『国と指導者』下巻291ページ）。

「私たちの民の注意をイザヤ書58章に向けさせるよう、私は指示を受けてきた。この章を注意深く読み、教会に命をもたらすような奉仕を理解しなさい。福音の働きは、私たちの骨折りとともに気前の良い手段によってなされるべきである。あなたが助けを必要とする苦しめる人に会うとき、彼らを助けなさい。空腹な者たちを見いだすとき、彼らに食べ物を与えなさい。そうすることで、あなたはキリストの奉仕に倣って働いているのである。主の聖なる働きは慈善の働きであった。その働きに参加するよう、あらゆる所にいる私たちの民を励まそう」（『福祉伝道』29ページ、英文）。

### 話し合いのための質問

- ① あなたは、正義を行うことや愛情深い慈悲を施すことを礼拝行為として考えたことがありますか。このことは、他者に対するあなたの気遣い方をどのように変えますか。また、あなたの礼拝の仕方をどのように変えるでしょうか。
- ② 預言者たちを通じてあらわされているように、貧しく困窮している人々に対する神の未来像や情熱は、この世界に対するあなたの見方をどのように変えますか。もしあなたが預言者の目で見、預言者の耳で聞くなれば、地元のニュース報道はどのように違って読めたり、聞こえたりするでしょうか。

### まとめ

預言者たちはその土地の悪を憂慮していましたが、とりわけ、神を自分たちのものと主張し、礼拝していた人々が犯した悪に注目しました。預言者たちやイエスにとって、礼拝は不正と相容れないものであり、そのような〔信心深い人たちが悪を行っているような〕宗教は偽善なのです。神が求めておられる本当の礼拝には、抑圧をなくすために働くことや、貧しく困窮している人々を気遣うことが含まれています。